

『幸せな時代』 作：ポチ子

『幸せな時代』 作…ポチ子

私が幸せだった時を、

誰かが不幸な時代だといった。

私が苦しい時を、

幸せな時代だったという。

その人は、

自分を肯定するためだけに、

人の幸せを平気で踏みにじって、

不幸を見なかったことにする。

その場所にあった笑顔を、

苦しむ泣き声を、

ゴミ箱に捨てて、

初めからそんなものは無かったというのだ。

どんなに不幸な時代も、

それは誰かの幸せで成り立っていて、

どんな幸福な時代でも、

誰かは不幸の中にいる。

その人たちは確かにそこにいたし、

今もどこかにいるのだ。